

建築家 村山 雄一

屋根

胡桃の硬い殻を割って中の実を取り出すと、殻と同じ形をした木の実を見いだす。これは胡桃が実を結ぶ過程で、実を作る力を殻にまで作用させていることを物語っている。

私も建物の内からの要求がそのまま外観の表現となるように心掛けています。だから、これから建つ建物の姿を外観から検討することはない。建物の形態は、あくまでもその建物の内からの要求に従うこととおのずと決まってくるものと考えています。

住宅を設計する時、屋根を「奇せ棟にするか、それとも予算の都合で切り妻にするか」と考えることは、建物の形を外から規定することになる。天井は水平であるのに、その上の屋根は斜めに架かっているというの何

空間に動きを

③

かしら不自然な感じがする。天井裏を収納か何か他の用途に利用するのでなければ、私は最上階の天井の形がそのまま屋根

とつであらう。西欧に古くからドームの屋根があるように、日本の民家には合掌造りという両手を合わせた形の屋根があ

くともどこかしらホッとすることか。天井を水平にすれば、木の端をペタッとかぶせたようなものだ。垂直

う。せめて土間の丸い蓋のように、天井を少し持ち上げて壁との角度が鈍角になるようにしたい。そうすれば住む人が、

外観は内からの要求で決まる

の形によって現れてくるようにしたい。

屋根には、覆いとしての役目がある。片手をかさずとも覆う行為のひ

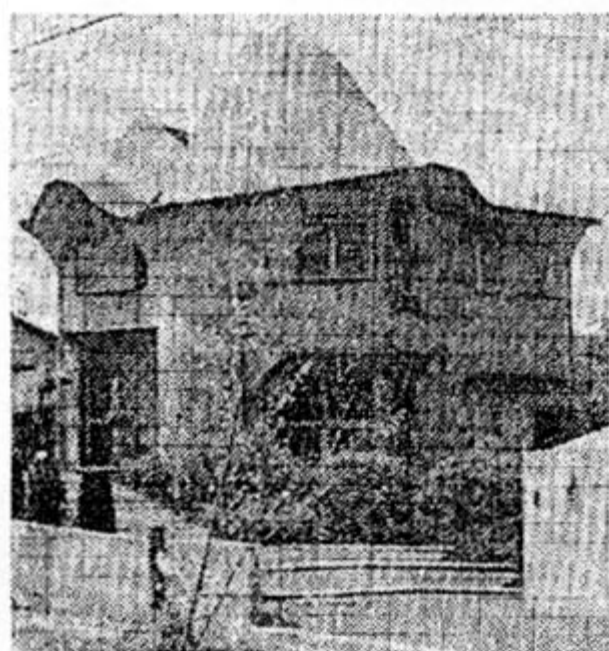
る。昔の農村では、この合掌造りの屋根裏で蚕を飼っていた。空に向かって両手を合わせた形の屋根の下にいると、蚕でな

に立つ壁に対して、水平の天井は直角に交わるから動きが感じられない。天井が垂れ下がってくれば、その下で生活するものに圧迫感を与えるた

天井の下に包まれ保護されているという安んじ感を得ることが出来るだろう。そして、部屋ごとの要求に従って天井を作り、それをそのまま屋根

の形にしたら、私たちはもっと自由な形の屋根を街中に築くことができるのではないだろうか。この住宅では、2階の寝室と子供室の天井が空

の形にしたら、私たちはもっと自由な形の屋根を街中に築くことができるのではないだろうか。この住宅では、2階の寝室と子供室の天井が空



ふたこぶ屋根の家



室内から見上げる

「ハイジのおウチみたい」「ムーミンの家だ」と感想はさまざまである。完成して間もなく、この家に泊めて頂いた。翌朝寝ぼけまなこに映った天井の様子に、ハッとしてベッドの上に眺ね起き、自分はどこにいるのか?とあたりをキョロキョロ見回した。頭上に見慣れぬ天井の形とその高さに驚いたのである。自分で設計しておきながら、と苦笑した。それは平らな低い天井の部屋に慣れ親しんでいるものの苦笑であった。